

2012年
5月15日発行
第67号

北九州地区労連

発行：北九州地区労働組合総連合（〒802-0071 北九州市小倉北区黄金町 1-4-9 山本ビル 207号 TEL 921-0747
ホームページアドレス http://www.geocities.jp/k_roren/ Eメールアドレス k_roren@ybb.ne.jp F A X 921-0284

消費税増税反対、脱原発など

86団体、1000人余が結集 第83回北九州統一メーデー万歳



第83回北九州統一メーデーは5月1日10時から前日までの雨も上がり新緑映える小倉城天守閣広場で開かれました。

86団体1000人の労働者、市民が参加しました。オープニングは元氣あふれる北九州のうたごえ合唱団、若松で活躍中の「夢限太鼓」の勇壮な響きで開会しました。

「賃上げと安定した雇用の確保」、「ディーセントワークなど安心社会の実現」、「被災者本位の震災復興」、「原発ゼロ社会の実現」、「消費税増税反対、TPP参加反対」、「憲法改悪反対、普天間など米軍基地の撤去、核兵器の全面禁止の実現」などを掲げ、要求で一致する労働者・労働組合をはじめ、悪政によって

苦しめられている全ての仲間呼びかけ、野田民主党内閣の悪政への怒りと切実な要求を総結集する集会として大きな成功をおさめることが出来ました。

被災地支援、争議支援などで訴えた会場カンパは112639円が集約されました。

模擬店には9団体が出店しました。

プラカード展は多くの出品物の中で年金者組合門司支部が最優秀賞に選ばれました。

たたかえば、必ず情勢を切り開くことが出来ます。

労働者が誇りを持って働ける社会、お年寄りが安心して過ごす事が出来る社会、生活と権利が守られる社会の実現のためにこれからも元氣いっぱいがんばりましょう。



雨上がり

5月といえば、こどもの日です。5月は菖蒲の花が咲くころで菖蒲の節句とも言われてきたそうです。

江戸時代の武士は、こども達が、強くたくましく育つために、5月5日になると家の中に、よろい、かぶと、太鼓、それに金太郎や強そうな武者人形を飾ったそうです。これは、いさましい武士になつてほしいという気持ちのあらわれだそうです。

こいのぼりは、それに対抗して庶民がたてたのが始まりで、これも江戸時代からのならわしだそうです。滝をのぼる本物の鯉のように、男の子が元気に大きくなることを願い、また、「わが家に男の子が生まれました。どうぞお守りください。」と天の神様に伝え、守つていただく意味もあるそうです。

こいのぼりは、最初、手すき和紙を使い、手描きで作られていました。その後、油紙、綿と破れにくいものになり、現在のナイロン製になったのは、1957年（昭和32年）からで、その時の色は黒と赤の2色で地味なものだったそうです。

こどもの日の言い伝えについて少し調べてみました。参考あれ！

北九州地区労連(裏面)

FSGT・ビビチタ参加、交流活動報告(2012年3月29日出発～4月6日帰国)

スポーツを通じて、平和への熱い思いを感じた

広島・長崎反核平和マラソンスタッフ代表团・団長 西村文男

西村文男さん略歴
1985年より平和マラソン参加
現在 63歳 地区労連幹事



(注) ビビチタ (VIVICITTA) は

イタリアスポーツ連盟(UISP)によって開催される、世界同時マラソンです。単に走るだけでなく、平和を愛し、相手を思いやる心を持ち、健康の促進を望み、そして環境保全のために世界各地と連携して走ります。参加者は同時刻に世界各地の都市で走ります。イタリア国内の開催都市はミラノ・ナポリ・ローマ等全国73ヶ所ですが、世界150都市で開催されます。今年は4月1日に行われ、日本でも横浜で開催されました。

昨年11月3日の新日本スポーツ連盟(NJSF)とフランス労働者スポーツ体操連盟(FSGT)の交流協定に基づく2012年以降の交流計画に関するミーティングで、FSGTから2012年4月1日に行うビビチタ(注)に「広島・長崎反核平和マラソン」のメンバーを招待したいと意思表示があった。

その後、今年の1月25日、FSGT本部の日本担当・ジャンポールを通じて、3月29日～4月5日の日程で招待人数は6～7人、「広島・長崎反核平和マラソン」のスタッフを優先することの招待状が届いた。しかし実行委員のメンバーからは、年度末で長期の休暇が取れず参加出来ないとの返事が返ってきた。

このままでは、FSGTのせっかくの好意を裏切ることになり、今後の交流活動にも重大な支障をきたす事になりかねないと思い、まず実行委員長の私と神田事務局長が決断して実行委員会に加盟する全ての労働組合、スポーツ団体に呼びかけることにした。神田事務局長は休みが取れないとのことで、退職を決意して臨んだ。

その結果、瀧川 聡実行委員、内田順三運転手の4人で代表团を結成した。

フランスに行くまで、セーヌ・サン・ドニ県のサン・ウーアンでのビビチタ(4月1日、日曜日開催される12キロのロードレース)に参加しか知らされてい



なかった。3月29日(木)11時55分に東京(成田国際空港)を出発して、17時15分(12時間20分のフライト)にパリ(シャルルドゴール空港)へ到着した。空港には県委員長のアランと運転手、通訳の高山さんが迎えに来ていた。

3月30日(金)の午前中、セーヌ・サン・ドニ県委員会の事務所に訪問して、日程の打合せを行った。

午後からプラネタリウムを観に行くとのことであったが、私は昼食のワインで気分が悪くなりホテルで休んだ。風邪と時差ぼけで体調を崩したようだ。

そして夕方、ビビチタが開催される会場で交流集会有るので、そこで「広島・長崎反核平和マラソン」の取り組みについて報告して欲しいと依頼された。

〈セーヌ・サン・ドニ県委員会事務所で〉 (つづく)



9条まつりで訴える参加者

9条まつりに2000人が参加、「楽しくて、憲法の力を確信」

「第2回北九州9条まつり」は、憲法記念日の5月3日、10時半から、勝山公園で開かれました。心配されていた雨は降らず、参加者も2000人に達し、楽しい、そして、憲法の力を確信させるまつりとなりました。

会場には、テントも張られ、パン、せんべい、飲み物、さらにバッジなどさまざまな平和グッズの店が並びました。

開会あいさつに立った荒牧啓一・まつり実行委員会会長(憲法ネット座長)は、「憲法を変えようとする自民党などが、一斉に改憲案を発表してきました。今日の朝日新聞に、『日本国憲法、今も最先端』という記事が出ています。世界の中でも日本国憲法は、先進性を持っているのです。まして、憲法9条は、世界が目指し、日本の国民も、これによって守られているのです。」と憲法と9条の大切さを訴えました。

終了後、13時から開始された「北九州憲法集会」に合流しました。

(年金者組合 野瀬)